

ネイチャー高知

発行 高知県自然観察
指導員連絡会
事務局 高知市一宮3858
-7 B-101三本健二方
題字 会長 澤良木庄一

No. 10 1997 (平成9) 年3月30日発行

'97年通常総会の記録

2月16日、高知市中央公民館第1会議室で開いた総会では、次のことが決まりました。開会時点の出席者は25人、委任状は15通でした。

■'96年事業実績

- 1月22日 通常総会 高知市本町五丁目 高知縣市町村共済会館「赤帝の間」
会員研修会 前田卓 副会長講演「地震について」
- 3月17日 公募観察会 蟹ヶ池探鳥会〔日本野鳥の会高知支部主催〕 土佐市
- 5月19日 会員研修観察会 四万十川川下り〔勤労者山岳会と共催〕 中村市
- 11月9・10日 公募観察会 プランツウォッチング〔牧野植物園ほか主催〕
ノジギクと大月エコロジーキャンプ場の自然観察
- 1～12月 高知城公園ネイチャーゲームの会〔高知城公園ネイチャーゲームの会
主催〕 城西公園、丸ノ内緑地、針木浄水場付近ほか

【後援】 1月13日～15日 第4回高知県ネイチャーゲーム初級指導員養成講座
〔日本ネイチャーゲーム協会高知県支部主催〕 会場：国立室戸少年自然の家

【会報『ネイチャー高知』】 7号：7月30日 8ページ 8号：10月3日 4ページ

■'96年決算

費目	予算	決算	備考
収入 繰越金	74,723	74,723	当年分会費1,000を含む
会費	70,000	53,000	
利息	1,000	389	
寄付金	—	10,000	会長から
前年会費	—	1,000	
合計	145,723	139,112	
支出 通信費	41,000	15,270	郵便料(会誌、研修会ほか)
会場使用料	31,000	18,540	総会(共済会館)

講師謝金	15,000	0	
機関誌印刷費	9,000	3,420	7号、8号
事務雑費	9,000	2,690	総会資料コピー、封筒、インクリボン、セロテープ
予備費	40,723	0	
合計	145,723	39,920	

残額（収入－支出） 99,192 円 翌年へ繰越

■'97年事業計画

3月9日 共催・研修会〔四万十川河床出土巨木を考える会主催〕講演会、見学会
講演：東北大学大学院理学研究科 鈴木三男助教授「日本の埋没林 ― 埋没林が
われわれに語りかけるもの」 中村市立文化センター

3月16日 共催・公募観察会 蟹ヶ池探鳥会〔日本野鳥の会高知支部主催〕

時期未定 野外研修会：地学（化石など）

時期未定 野外研修会：昆虫

4月以降毎月 ネイチャーセンサス〔運営：宇田会員、日向会員ほか〕 安芸市

2月以降毎月 共催・高知城公園ネイチャーゲームの会〔高知城公園ネイチャーゲ
ームの会主催〕

【後援、協力】

2月21日～23日 第5回高知県ネイチャーゲーム初級指導員養成講座<名義後援>
主催：日本ネイチャーゲーム協会高知県支部、会場：県立香北青少年の家

4月～ 県実施の「ふるさとグリーンセンサス事業」への協力

目的：調査を通じて自然環境の保全と活用への関心を高め、自然保護思想の高揚
を図る □方法：一般から参加者を募り、観察会形式またはフリー形式により、
各地で調査対象種の存否を調べる □調査結果：分布図にまとめ、自然環境保全
指針、レッドデータブックの見直し、作成などに反映させるとともに、自然の活
用、自然環境の保全施策の基礎資料とする

【要望】 自然観察指導員講習会（指導員養成）：県と懇日本自然保護協会に対し
て来年の開催を要望する

■'97年予算

収入	繰越金	99,192	支出	通信費	32,000	切手、葉書
	会費	55,000		会場使用料	16,000	総会、役員会
	利息	1,000		機関誌印刷費	13,000	コピー
				事務雑費	5,000	資料、封筒など
				予備費	89,192	
	合計	155,192		合計	155,192	

誰のための自然か

あの大方町の青少年の家で自然観察指導員の講習会に参加したとき、田舎では自然イコール金になるもの、自然を売り物にして観光客を呼ぶ、等の考え方は純粹に自然を愛する者の立場から云えば不純な考えではないか、と言うようなことを指導に見えていた自然保護協会の先生にしゃべった記憶があります。またそのとき一緒に受講した人のうち何方かが、庭木についた毛虫を駆除するのは自然保護に反するか、と云うような質問をしたのが今も記憶に残っています。それに対する明確な答えはどちらも無かったように思います。

当時私は、それまでに自分が行った林道の測量によって土佐の山に生じた、恐らく何キロにも及ぶであろう紐状の自然破壊に対する罪滅ぼしの気持ちから、自然観察指導員を目指しました。

その後思いもよらず環境調査会社の一員として、今度は自分が自然そのものを金儲けの対象として捕らえるようになって、とっくの昔に自然の輪（和）からはみ出してしまった人間が、自らはその輪の中に戻る努力もせず、賢しらにエコロジー、エコロジーと叫ぶのは、人間が云う環境がいかに関係人間にとってご都合主義の環境であるか、一体守られるべきは誰にとっての自然か、つくづく考えさせられる今日この頃です。

今はやりの多自然型云々、地球にやさしい云々も、単に私たちの耳に心地よく響くだけであって、「本当かよ？」と云う気持ちも拭いきれません。

この地球上の空気の最大の汚染源の一つである自動車を製造している会社のテレビコマーシャルに“これからはエゴからエコへ”と言うのが有ります。これなどは聞く人の耳当たりの良さを狙って売り上げの増大を図る、今はやりのエコロジーブームに便乗した一つの戦略以外の何物でもないと思います。

なぜなら、人々が本当に自然を大切に考え真の自然環境の中で快適に暮らす事を望むなら、自動車は売れなくなるのが本当だと思うのです。

現在の社会の中で、うわべだけの自然保護や生態系保護を訴え、一般大衆を味方につけていい子ぶっている企業、または売名者の横行するのを見るにつけ、自然そのものをろくに見つめようともせず、軽々に自然に手を出す行為だけはどうかやめてもらいたい気持ちで一杯です。

自分一人くらいは、自分らが生きている間くらいは、自分らの孫子の代くらいまでは、そんなエゴはもう捨て去るべきではないでしょうか。

(株)環境アセスメントセンター四国支店長 景山寛司

植物とのつき合いあれこれ

奥宮 鈴子

園芸好きの祖母と、地質調査で野山を歩きまわっていた父との影響で、植物を育てる事や、山野で出合う植物に、子供の頃から関心がありました。昔の事になりますが、横須賀市に住んでいた頃は、敷地は広く、各種類の樹や、草花類と、雑草が一ぱいの環境の中で育ちました。横須賀市は、丘陵で占められたひな壇状の港町です。トンネルや、切り通しの多い地形で、崖のある通学路には、7月に入ると、白く香りの強い山ゆりの花が、辺り一帯に咲いて居ました。珍らしい事ではなく、極く普通の光景でした。然し戦後から今日までに、道路や宅地等の開発で、山を切り崩し建物が立ち並ぶ、マンモス都市となり、残念な事に、山ゆりは、すっかり姿を消した様に聞いて居ります。帰る時間を忘れる程、山で遊び呆けて、あの鮮やかな花粉で服を汚し、母によく叱られた日の事が、懐かしく思い出されます。本籍地の高知市に戻り、戦後の食糧難の厳しい時に、買い出しの際に出合ったかざぐるまの白い花は、空に向かって伸びた蔓の先で、光り輝いて見えました。肩に食い込んだ荷物の重さを、すっかり忘れさせてくれる程、感動し、勇気づけられました。昭和37年に、県北部の山間へ勤務となりました。当時は、手付かずの自然が豊富な地域で、初めて見る植物との出会いが多く、印象に残る所でした。今は、ダムが出来、道路が見違えるように拡がり、便利になった代りに、心を動かされた植物達は、岩場と共に水没し絶滅してしまいました。野草等を実生から育てますと、発芽の様子から幼苗が、姿を変え乍ら成株に育つ過程が観察でき、育て上げた植物については、しっかりと把握できた様に思い、決して忘れる事はありません。近頃環境保全について、話題になりますが、……例えば原野は、自然にまかせて置けば、やがては林に変ると云われて居ます。自然の推移を正しく受けとめるのが本筋なのか、又草原の花を守る為に、手入れを行い環境維持に努力するのが良いのか、然しこれは、他の植物の生活を奪う事になりそうです。美しい花を守るのは、人情で、人間の都合から生れた行為です。植物全体の立場になって考えますと、一寸と不公平のように思えます。そんな、つまらぬ事を考えている中に、何が良い方法なのか、何が正しいのか分からなくなりました。私共は、自然界の中での、重要な係わり合いを、勉強して、これ以上環境を悪化させぬ様に、身近かな事から実行に移し協力致したいと思っています。若い方々のおかげで、今後も植物との出会いが続けられる幸せに、感謝致して居ります。

(高知市一宮在住)

我家にはささやかな庭があり毎日野鳥が訪れる。

スズメは年中居るが冬の今はその他にメジロ、ヒヨドリ、ジョウビタキが常連で時々ウグイス、モズ、ツグミ等が来る。

ピラカンサとクロガネモチの実は正月にはすでに食べつくされ全く無かった。

今はミカンやリンゴを輪切りにして木の枝にさしているが時々無い時もある。

そのせいか数十羽の群で来ていたメジロが今は2羽だけである。

ひょっとしたら番で同じ個体が毎日来ているのかもしれない。

ヒヨドリは1羽の時も2～3羽の時もある。

また石うすに水を入れ木陰に置いているがよくメジロとヒヨドリが水浴びをするし飲んでもいる。

生垣にサザンカを植えているがヒヨドリもメジロもよく花の蜜を吸う。

そのせいか九州の一部ではメジロのことをハナシイ（花吸い）と呼ぶ所があるというハナシである。

それはともかく最近おかしな事に気がついた。ヒヨドリがサザンカの花びらも食べるのである。妻も前の家の住人もそのことに気がついてきた。

私も初めは蜜を吸っているのだと思っていたがそうではない。あきらかに食べているのである。

度々目撃するのだから蜜が無いのでヤケクソになって花びらを食べているのではなさそうである。

我家のは八重咲きの白花だがヒヨドリはどこでもサザンカの花びらを食べるのであろうか。それとも私の家に来るヒヨドリだけが特別なのだろうか。少なくとも私は今までそんな話を聞いたことがない。

ヒヨドリが花びらを食べるのはそれがおいしいからに違いないと思い私も食べてみた。

甘味も苦味もありなんと形容しがたい味で少なくとも酒のサカナになるような代物ではない。

高知県自然観察指導員連絡会会員名簿

68人

☆…'97年会費納入済('97年3月27日現在47人)

<未

ア行

☆石井 忠彦
 石元 美佐
 ☆稲垣 典年
 今城 雅彦
 ☆宇田 英一
 ☆内村 満紀
 ☆大谷 洋子
 ☆大野 登志子
 ☆奥宮 鈴子

カ行

☆景山 寛司
 ☆檀尾 守
 ☆片岡 理
 川瀬 卿有
 川淵 陽子
 菊池 美恵
 ☆楠瀬 伸子
 ☆鴻上 泰

サ行

☆酒井 隆昌
 ☆坂枝 満雄
 ☆坂本 彰
 澤田 佳長
 ☆澤良木 庄一
 島崎 完治
 ☆杉本 重美

タ行

☆高崎 秀生
 ☆高橋 啓
 ☆武内 明
 ☆竹崎 節子
 田城 松幸
 谷岡 俊彦
 谷口 渥美
 ☆田村 麻美子
 田村 雄一
 ☆筒井 淳子
 ☆十河 久

ナ行		
☆中川	啓	7
☆永吉	務	7
☆新谷	嘉典	7
西村	公志	7
☆西森	信喜	7
☆沼	三從	7
野町	泰造	7
ハ行		
☆橋本	淳	7
☆橋本	裕子	7
濱田	哲暁	7
☆日向	一雄	7
☆廣末	悌次郎	7
☆弘畑	佳之	7
☆藤原	波磨子	7
☆別府	隆守	7
☆細川	公子	7
☆堀内	和美	7
マ行		
☆前田	卓	7
☆前田	智子	7
☆松木	正雄	7
三浦	佐恵子	7
☆三本	健二	7
宮崎	勲	7
牟田	和代	7
森本	政男	7
ヤ行		
☆山岡	遵	7
☆山崎	健児	7
山崎	透	7
☆山本	孝信	7
山本	正彦	7
ワ行		
☆涌井	美佐子	7
和田	計幸	7
☆渡辺	允史	7

地質名所の絵葉書

『四国地質ガイド 第1集』

高知県には世界にも誇れる地質の見学ポイントがあります。高知地学研究会では、その中から8景を厳選し、絵葉書にしています。簡潔な解説もついていますので、見学に役立ちます。県下の多くの書店で販売中です。

カラー絵葉書8枚組、定価 800円

発行：高知地学研究会（高知大学理学部地学教室 吉倉研究室内）

内容：①枕状溶岩（室戸市、第三紀）、②スランプ層（同）、③酸性凝灰岩と放散虫化石（高知市鴻ノ森、シルル紀）、④層状チャートと放散虫化石（横波半島、白亜紀）、⑤横倉山とサンゴ化石（越知町、シルル紀）、⑥カルスト地形と石灰岩（四国カルスト、ペルム紀）、⑦足摺岬とラパキビ花崗岩（土佐清水市、第三紀）、⑧砂岩-泥岩互層とリップルマーク（同）

（三本）

事務局だより

総会で提案された会費納入案内は、24人の方に発送しました。その結果、11人の方から振り込みがあり、会員名簿搭載者は68人になりました。

なお、名簿で☆印のついていない方は今年の会費納入がまだです。お早めに郵便振替で払い込んで下さい（年額1,000円）。

口座番号 01630-9-41422

加入者名 高知県自然観察指導員連絡会

編集後記

自己紹介または自由題での原稿依頼の第2回として、前回とは別の5人の方をお願いしました。応じて下さった奥宮さん、景山さんに厚く御礼申し上げます。

これらお二人や田城さんの原稿を参考にいただき、多くの方が投稿して下さいを願っております。サークルの行事案内や季節の便りなどもどしどしお寄せ下さい。次号の原稿締切は、6月30日とします。 （三本 健二）